

全体会

開会式

開会宣言

藤道 健二 (ふじみち けんじ)
山口県過疎地域対策促進協議会会長・萩市長

主催者挨拶

佐々木 浩 (ささき ひろし)
総務省大臣官房地域力創造審議官

歓迎挨拶

村岡 嗣政 (むらおか つぐまさ)
山口県知事

来賓挨拶

谷 公一 (たに こういち)
衆議院議員・自由民主党過疎対策特別委員会委員長

柳居 俊学 (やない しゅんがく)
全国都道府県議会議長会会長・山口県議会議長





主催者挨拶

総務省大臣官房地域力創造審議官

佐々木 浩氏 (ささき ひろし)

総務省の地域力創造審議官の佐々木でございます。

総務大臣石田から主催者挨拶を預かっておりますので、代読させていただきます。

本日、このように全国過疎問題シンポジウム2018in山口を開催できますことを主催者として大変うれしく思います。

本日ご臨席の皆様におかれましては、日頃から過疎対策に格別のご尽力を賜り、心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

また、自由民主党過疎対策特別委員会委員長の谷公一衆議院議員をはじめ、ご来賓の皆様には公務ご多用にも関わらずご出席いただきまして、厚く御礼を申し上げます。

現在、日本は急速に進行する少子化、人口減少という大きな課題に直面しています。

特に過疎地域においては、集落の小規模化、高齢化により集落機能が低下し、生活の維持が困難な集落が増加するなど重大な局面を迎えています。

こうした中で、持続可能な地域づくりを進めていくためにはソサエティ5.0の革新的技術等も活用しながら地域の特性を活かした産業や観光の振興を図ることが必要です。

また、住民の皆様が住み続けてよかったと思える地域づくりを行うことが必要です。

これらのためには住民の皆様をあげて知恵を出し合い、力を合わせて地域づくりに取り組むことが重要です。

総務省では、これまでも過疎地域の住民の命と暮らしを守る実効性ある施策を高じてきたところですが、平成31年度の概算要求においては、過疎地域の持続可能な活性化のため、基幹集落を中心として集落ネットワーク圏を形成する取組への支援に加え、若者の田園回帰を促進する取組への支援に

ついても拡充を要求しているところです。

また、東京一極集中の是正に向けて、地域おこし協力隊などの取組を活用した地方への新しい人の流れの創出についても引き続き支援してまいります。

このような中で、現行の過疎法が平成33年3月に期限を迎えます。

総務省では、昨年度から有識者会議である過疎問題懇談会において、過疎対策全般の課題の整理などを行っています。

過疎法は、これまで議員立法として制定されてきた経緯があり、今後の過疎対策のあり方についても、各党各会派において議論されることになると思われませんが、総務省としても、こうした議論を踏まえつつ、今後どのような取組が求められるのかを皆様とともに検討してまいりたいと考えております。

さて、今回の全国過疎問題シンポジウムのテーマは「田園回帰 ～地方に若者を呼び込む～」です。

近年、若い世代を中心に都市部から過疎地域へ移住しようとする田園回帰の潮流が高まっているといわれておりますが、過疎地域に関心を持ち、実際に移住しようという若者を増やしていくことは、活力ある地域をつくり出していく上で重要です。

明治維新胎動の地として、新時代の幕開けの舞台ともなったここ山口県で、若者の田園回帰を促進する方策や具体的事例について活発な議論が展開されることを期待しております。

結びに、本シンポジウムの開催にご尽力いただきました山口県、山口県過疎地域対策促進協議会をはじめとする関係の皆様にご改めて感謝申し上げますとともに、ご臨席の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

平成30年10月25日、総務大臣 石田真敏。



歓迎挨拶

山口県知事

村岡 嗣政氏（むらおか つぐまさ）

皆さんこんにちは。山口県知事の村岡でございます。

全国過疎問題シンポジウム2018in山口の開催にあたりまして、ひとこと、開催県を代表いたしまして、皆様に歓迎のご挨拶を述べさせていただきます。

本日はご来賓をはじめ大勢の皆様から、ここ明治維新胎動の地、山口にお越しいただきまして、心から歓迎をいたしますとともに、ご出席の皆様方には平素から過疎地域の振興にご尽力を賜っておりまして深く感謝を申し上げます。

また、本日栄えある表彰を受けられます9団体の皆様には心からお喜びを申し上げますとともにこれまでのご熱意とご努力に対しまして深く敬意を表する次第でございます。さて、ご存じのとおり、人口減少高齢化の進展によりまして最も大きな影響を受けるのは過疎地域であります。

全国よりも四半世紀早く人口減少局面に入りましたここ山口県におきましては、県土の7割を占める中山間地域において集落機能の維持が困難な地域も出てくるなど、より厳しい現実に向き合っているわけでもあります。

こうした状況を克服するため、中山間地域のすべての市町におきまして、山口県版の小さな拠点があります「やまぐち元気生活圏」づくり、この取組を進めております。

集落機能の維持に加えまして、地域の活力となり将来を支えていく若者を呼び込む取組も強力に進めていく必要があります。近年、若い世代を中心に都市部から過疎地域等の農山漁村へ移住しようとする田園回帰の流れが拡大しております。

本県におきましてもこの移住の促進、県と県内市町とが連携して取組を進めておりますが、その移住相談件数、山口県におきましては3年前の2倍に達するというところで、私としましても手応えを感

じながら取組を進めております。

今日のこのシンポジウムのテーマは「田園回帰～地方に若者を呼び込む～」でございます。

こうした田園回帰の潮流をしっかりととらえて、都市から過疎地域への若者の流れを作り出していかなければなりません。どうか、皆様方にはこのシンポジウムで得られた知見に加えて参加者間の交流や情報交換も有効にご活用いただきまして、それぞれの過疎地域の振興に役立てていただくことを心から願う次第であります。そしてまた現行の過疎地域自立促進特別措置法が平成33年3月に期限を迎えるということになりますことから、このシンポジウムが過疎地域の持つ重要性や過疎対策の必要性を全国に力強く発信する、そうしたことになりますことを期待しております。

さて、本県では今年が明治改元150年の節目の年でありますことから、「幕末維新」をテーマにしました観光キャンペーンを展開しております。ぜひ、維新の志士が刻んだ歴史、文化にふれていただきまして、角島や秋吉台に代表される豊かな自然、新鮮な海の幸山の幸など、本県の多彩な魅力を満喫していただければと思います。

特に、現在、国内最大級の花と緑の祭典「山口ゆめ花博」を来月4日まで、山口市のきらら博記念公園において開催しております。これまでに県内外から大変多くの皆様にご来場いただいております。1,000万本もの花々が咲く会場ではさまざまなイベント、体験プログラムをお楽しみいただけます。ぜひこの機会に会場まで足をお運びいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは最後に、本シンポジウムにご参集の皆様のご健勝ご活躍を祈念いたしまして、歓迎のご挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。



来賓挨拶

衆議院議員・自由民主党過疎対策特別委員会委員長

谷 公一氏 (たに こういち)

ご紹介いただきました衆議院議員、自由民主党過疎対策の委員長を引き続きやらさせていただきます谷 公一でございます。

今日は、我が党のほうから、元過疎対策の委員長でもあり元内閣府特命担当大臣の山口先生、また、委員会の事務局長の小島先生ともども参加させていただきました。

午前中は山口県内の各市長さん、町長さんから現行の問題点などさまざまお聞きしたところでございます。今回のシンポジウム、このように全国各地から多くの方にお集まりいただき、盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。

シンポジウムの開催に当たりまして、多大なご尽力をいただきました山口県、また山口県過疎地域対策促進協議会の皆様方に深く敬意と感謝を表する次第でございます。

過疎問題につきましては、先ほど村岡知事などからお話ございました。

問題は現行の過疎法が平成33年3月に10年の期限を迎える、正確に言いますと11年です、これをどうするかということこれから、これは議員立法でございますので、政権与党の自由民主党で具体的に考えて取り組まなければならないということで、先週から各省庁のヒアリングを始めたところです。

また、今年と来年で、全国20か所ほど地方の、地域の現場の生の声をお聞きしようとしております。そういう中で、今の過疎法を単純に延長するということとはなかなか厳しい面があるかと思えます。

初めて国全体が人口減少という局面を迎えた、そういう中で人口減少が特に激しく財政的な力も弱い自治体、地域を、どういう理念で、どういう考え方で、どのエリアをどう支援していくのか。これをしっかり理論武装しなければならないと思います。一部には「なぜ過疎を支援しなければならないの

か」という声もあるやに聞いております。

そういう声を跳ね飛ばして人口減少が著しい地域を、そして財政的な力が弱い地域を引き続きしっかり支援していくんだという決意のもとに、この改正に臨まなければならないというふうに思っているところでございます。

全国それぞれの地域で、午前中にもお聞きしましたが、いろいろ工夫しながら、知恵を絞り、汗をかいて頑張っておられる多くの皆様がおられます。

そして、同じように汗をかきながらも、なかなか社会減が、自然減ももちろんですが、社会減がなかなか歯止めがかからなくて悪戦苦闘している地域もある。

そういう地域の実情をしっかりと聞きしながら、新たな過疎立法を何としてでも実現できるように、精一杯今後とも頑張っていきたいし、頑張りぬくことを皆様方にお誓い申し上げますところであります。

そういう意味で、今日の山口でのシンポジウムは、新たな過疎法成立に向けての大きな節目となる大会であろうかと思えます。

どうか積極的にご発言していただき、充実した大会であった、実りの多い大会であったと言えるような、思えるような大会であることを心から願っているところでございます。

豊かな税収があるわけではない。人口もたくさんいるわけではない。ただ、人は少なくとも知恵はある、やる気はある。そういう思いで、皆さんとともに、今後とも頑張っていきたいと思えます。

今日の大会のご成功と今日お集まりの皆さんがそれぞれの地域で今後とも頑張られることを祈念して、ご健勝とご多幸をお祈り申し上げましてご挨拶に代えさせていただきますと思えます。

本日は誠にありがとうございます。ありがとうございます。



来賓挨拶

全国都道府県議会議長会会長・山口県議会議長

柳居 俊学氏 (やない しゅんがく)

地元県議会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

全国各地からお越しいただきました皆様、ようこそ、おいでませ山口へ。

心よりご歓迎を申し上げますとともに、平素から過疎地域への振興に多大なるご尽力をいただいておりますことに深甚なる敬意を表する次第であります。

また、本日、これまでのご功績により栄えある表彰をお受けになられます皆様、誠におめでとうございます。心よりお慶びを申し上げます。

さて、過疎地域は深刻な人口減少と高齢化の進展、将来の維持が危ぶまれる集落の発生などさまざまな問題に直面している一方で、国土の保全から安全な食料などの供給に至るまで、我が国の安全安心な生活を支える上で大変重要な基盤であると思っております。

また、全国でも大きく報道されているところでございますが、このたび、本県と私のふるさとでもあります離島の周防大島町を結ぶ大島大橋が貨物船の衝突によりましてライフラインが寸断されています。

現在も断水が続くなど、島民の生活への影響が長期化することが必至な状況になっています。

一昨年には、有人国境離島法が成立するなど、離島や過疎地域が果たす役割や機能が一段と高まる中で、こうした地域が自立活性化し、活動拠点としての機能を保持することは、新しい時代に向けて我が国を守り、発展を支える上で必要不可欠であります。

こうした中、本日、過疎地域振興の中核を担う皆様一堂に会され、「田園回帰 ～地方に若者を呼び込む～」を大会テーマに掲げられて精力的に研鑽を積まれることは誠に意義深いものがあ

り、その成果に大きな期待を寄せているところであります。

我々といたしましても、過疎地域の発展が、我が国が全体として多様で変化に富んだ、美しく風格ある国土となることに寄与するものとの認識のもと、過疎地域の振興に全力を尽くしてまいり所存であります。

どうか皆様には本シンポジウムを契機に相互の交流をいっそう深められ、過疎地域の振興にこの上もお力添えを賜りますようお願いを申しあげますとともに、この機会を通じまして、現在開催中の「山口ゆめ花博」はもとより、自然と歴史に育まれた山口県の魅力を十分ご堪能いただければ幸いに存じます。

終わりに、本日ご参集の皆様方のご健勝ご活躍を心より念願いたしましてご挨拶といたします。

平成30年10月25日。山口県議会議長、柳居俊学。ありがとうございました。